

- 土砂災害の危険が非常に高まったとき、北海道が「土砂災害警戒情報」を發表します。
- 後志地方では、1時間雨量80mmを觀測した場合「記録的短時間大雨情報」を發表します。
- 注意報、警報、特別警報は、気象庁等が發表します。
- 大雨警報や大雨特別警報は、(浸水害)(土砂災害)のように、特に警戒すべき内容をカッコ書きで發表します。

雨の状況	気象庁が発表する情報			町の対応	住民の行動
	土砂災害	浸水害	洪水		
大雨の可能性が高くなる	大雨に関する気象情報			・気象情報を収集	・空の変化、気象情報に注意する
大雨が始まる	大雨注意報		洪水注意報	・注意を呼びかけ ・警戒すべき地域を巡回	・危険な箇所、避難場所や避難ルートを確認する ・非常持出品を点検する
強さが増す	土砂災害警戒情報	大雨警報(土砂災害)	大雨警報(浸水害)	洪水警報	・避難の準備をする ・危険な場所には近づかない ・日頃と異なった外の様子があれば、役場に連絡する ・早めに自主避難する ・役場から避難の勧告・指示が出たら避難する
2時間～数時間続く					
大雨が一層激しくなる					
数十年に一度の大雨	大雨特別警報(土砂災害)	大雨特別警報(浸水害)		・非常に危険な状況であることを住民に伝える ・ただちに最善を尽くして身を守るよう呼びかける	・ただちに命を守る行動をとる ・避難所に避難する ・外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる

※ 「特別警報」とは

気象庁では、警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、大雨や暴風雪などの「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼びかけます。

自助・共助・公助について

自助	共助
自分で自分や家族を守る  ☒ 日頃から家族で話し合いチェックしておきましょう ☐ 自宅の耐震診断・補強、家具の固定 ☐ 地震が起きたら、どう行動するか ☐ ハザードマップを使って地域の特性や避難所の場所などを確認 ☐ 食料と水の備蓄 ☐ 非常持出品の準備と保管場所 ☐ 災害時の連絡方法	地域や事業者が助け合って守る ☐ 地域の防災活動 ☐ みんなで、まちの安全点検 ☐ 災害時には助け合って救出、初期消火
公助	行政による 防災・減災対策

(1) 大雨・土砂災害が発生したときの、避難先・避難方法

- ▶ 町は、現地の情報を聞き、避難先を判断します。
町から**避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)**が出たら、指示に従って、早めに避難しましょう。
- ▶ 町から指示がなくても、危険を感じたら、自主的に避難しましょう。

	町が発令するめやす	避難先・避難方法
避難準備・高齢者等避難開始	●避難に時間がかかる人が避難を開始する段階に来たとき、災害の発生する可能性が高まったとき。 ・「大雨警報」が発表される ・河川の氾濫が予測される など	◎浸水やがけ崩れの状況に応じて、町が避難先を指示します。
避難勧告	●災害が発生する可能性が明らかに高まったとき。 ・「土砂災害警戒情報」が発表される ・土砂災害の前兆が発見される ・床下浸水や道路冠水が発生しそうな状況になる など	●徒歩または車で避難します。 ●車で避難する方は、車で避難できない隣近所の方を乗せるようにしましょう。 ●避難するとき、道路冠水、がけ崩れや土石流に注意しましょう。
避難指示（緊急）	●災害が発生する危険性が非常に高いと判断されたとき。 ●災害が発生したとき。 ・「土砂災害警戒情報」の基準を超える土砂災害が発生 ・床下浸水や道路冠水が発生 など	浸水・がけ崩れの心配がない家の方は、自宅で待機した方が安全な場合もあります。 ●近所の方の避難を一時的に受け入れるようにしましょう。 ●安全が確認され次第、町が指示する避難所へ移動（二次避難）します。

(2) 留意事項

- 普段から土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の指定箇所について確認しておきましょう。
- 経験したことがない大雨の場合、山の水があふれ道路が冠水する場合、がけから小石が落ちたり水が湧き出している場合、地割れが起こった場合、川の流れが止まった場合などは、近所のがけや川の様子などに注意し、早めに避難しましょう。
- がけ崩れ、道路の冠水などの状況により、避難先が使用できない場合がありますので、そのときの状況により、できるだけ安全なところに避難しましょう。